令和3年度（2021年度）　公共事業評価／評価資料

評価の種類	事後評価
事業（計画）名	社会資本整備計画 熊本城公園の安全・安心な施設復旧（防災・安全）
事業（計画）期間	平成２９年度～令和２年度（４年間）
担当課	文化市民局　熊本城総合事務所

1　社会資本整備総合交付金を充てた要素事業の進捗状況

事業（計画）の概要

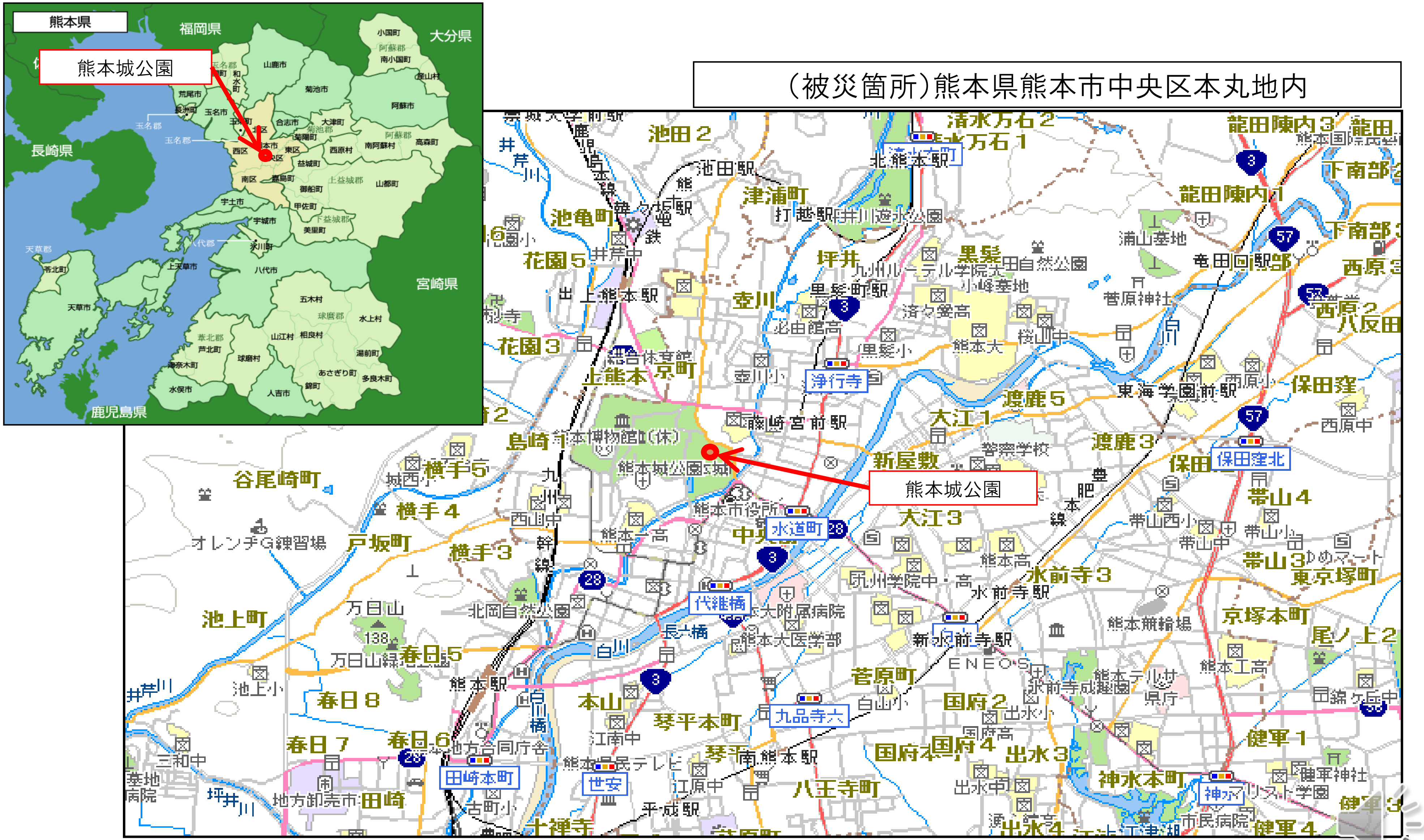
事業（計画）の名称	社会資本整備計画 熊本城公園の安全・安心な施設復旧（防災・安全）
事業（計画）期間	平成２９年度～令和２年度（４年間）
事業（計画）目標	熊本城公園は、文化財保護法における国指定の特別史跡にも指定され、国内外から多くの市民・県民・観光客が訪れる、熊本市を象徴する公園であるが、H28の熊本地震の影響により国指定の重要文化財が大きな被害を受け、主に本丸区域は立ち入り禁止となっている状況である。 今後の大規模災害に備え、いつでも誰もが安全・安心で快適に利用できる公園となるよう災害復旧に合わせ、天守閣の耐震改修やバリアフリー化等に努めることにより、安全性の確保や更なる公園利用者の増加を目指す。
概要	A　基幹事業 ① 熊本城公園における天守閣の耐震改修及びバリアフリー化 ② 放水銃設備の改修
事業費	２，５６０百万円
経緯	H29～　天守閣耐震及びバリアフリー化設計・工事着手 H31（R01）～　放水銃設備の改修設計・工事着手 R02　両事業完了
定量的指標	熊本城周辺への入込数を2,250,000人／年（H28）から3,000,000人／年（R02）に増加 H29年度当初：2,250千人/年 H31年度末：2,625千人/年 R02年度末：3,000千人/年

交付対象事業

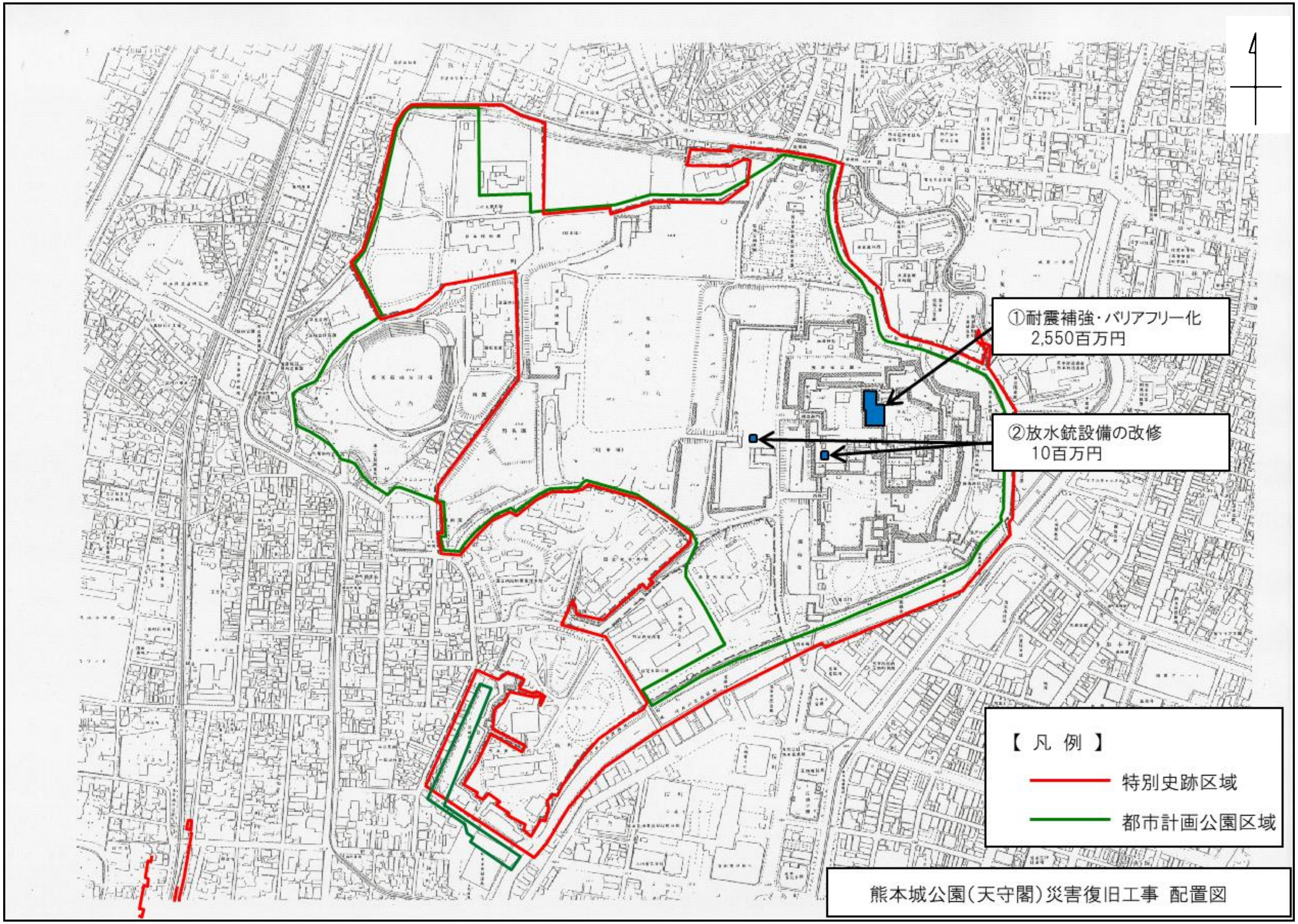
事業名	事業種別	事業箇所	事業内容	実施期間	事業費
A　基幹事業（２事業）					
①　熊本市都市公園安全・安心対策緊急総合支援事業	公園	熊本城公園	熊本城公園における天守閣の耐震改修及びバリアフリー化	H29～R02	2,550百万円
				小計	2,550百万円
②　熊本市都市公園事業	公園	熊本城公園	放水銃設備の改修	R01～R02	10百万円
				小計	2,560百万円
B　関連事業（0事業）					
C　効果促進事業（0事業）					
全体事業費（A＋B＋C）					
					2,560百万円

事業概要図

（被災箇所）熊本県熊本市中央区本丸地内


熊本県
福岡県
大分県
長崎県
宮崎県
鹿児島県
熊本城公園
熊本城公園

2. 配置図



①耐震補強・バリアフリー化
2,550百万円

②放水銃設備の改修
10百万円

【 凡 例 】

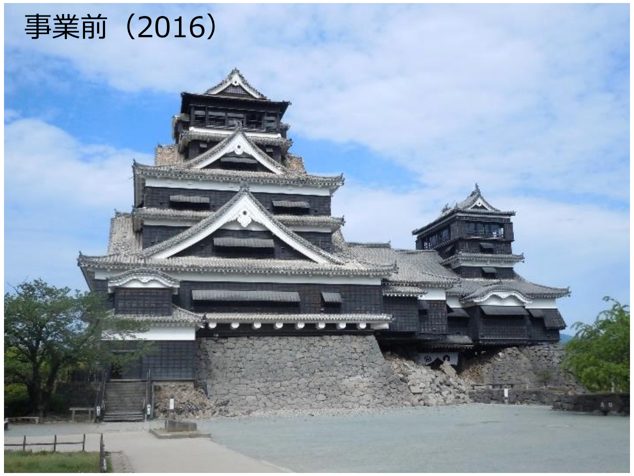
🟥 特別史跡区域

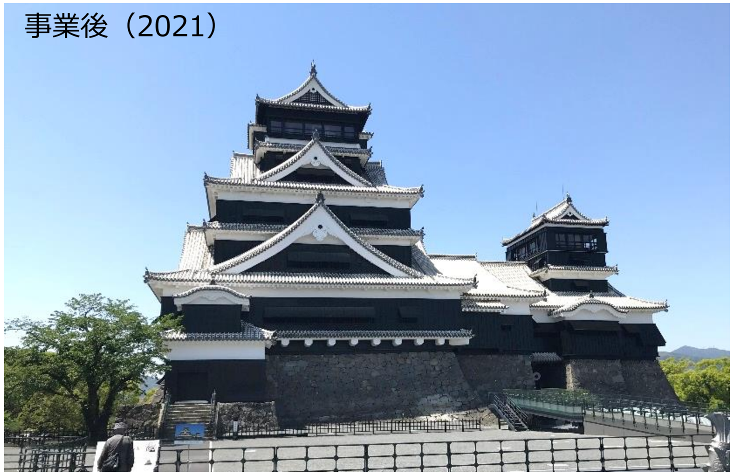
🟩 都市計画公園区域

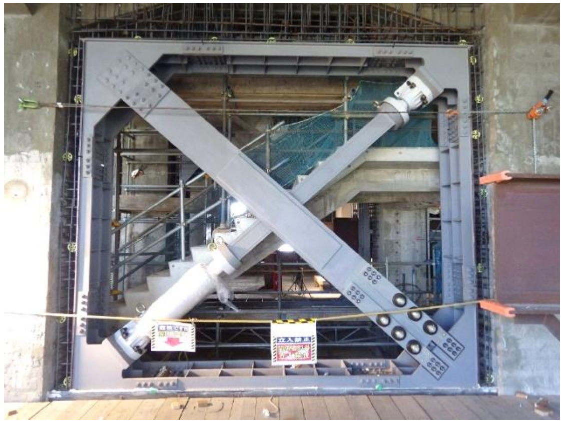
熊本城公園（天守閣）災害復旧工事 配置図

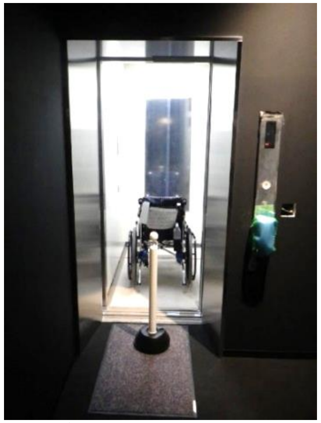
基幹事業：熊本市都市公園安全・安心対策緊急総合支援事業

事業内容
熊本城公園における天守閣の耐震改修及びバリアフリー化等


事業前（2016）


事業後（2021）


■耐震改修（クロスダンパー）


■バリアフリー化
（天守閣内エレベーター）

■バリアフリー化
（天守閣内進入路）

■放水銃設備の改修
（操作盤）

整備・改修施設の利用状況

2　事業の効果の発現状況

事業の効果の発現状況

基幹事業 ・熊本市都市公園安全・安心対策緊急総合支援事業	大規模災害に備え、いつでも誰もが安全・安心で快適に利用できる公園となるよう災害復旧に合わせ、天守閣の耐震改修やバリアフリー化等を実施。
耐震能力の向上	特別史跡内の施設であるため、杭の補強が不可能であった。そのため、制振装置を採用し、杭への負担軽減を図りつつ建物の補強を行った。今後、熊本地震と同規模の地震に対しても倒壊することなく、安全に観光客を避難させることが可能となった。耐震改修に関しては、日本建築センターにおける評価を取得済みである。また、大小天守では部分的に補強部材等を見せることにより、観光客に耐震性の向上を実感頂いている。
バリアフリー化	設計時に2回の事前説明会を実施し、バリアフリーに関するご意見を頂いた障がい者団体へ、工事完了後の事前公開の際にスロープ及びエレベーター等を実際に使用していただき、今まで行けなかった天守閣最上階からの景色を見ていただくなどし、好評であった。
放水銃設備の改修	熊本地震以降不具合を生じていた放水銃の電動弁や操作盤の改修及び移設を実施することで操作性と防災面の向上が図れた。改修後、消防訓練を適宜実施し更なる防災意識の向上に努めている。

3　評価指標の最終目標値の達成状況

評価指標の最終目標値の達成状況

計画の目標	熊本城公園は、文化財保護法における国指定の特別史跡にも指定され、国内外から多くの市民・県民・観光客が訪れる、熊本市を象徴する公園であるが、H28の熊本地震の影響により国指定の重要文化財が大きな被害を受け、主に本丸区域は立ち入り禁止となっている状況である。 今後の大規模災害に備え、いつでも誰もが安全・安心で快適に利用できる公園となるよう災害復旧に合わせ、天守閣の耐震改修やバリアフリー化等に努めることにより、安全性の確保や更なる公園利用者の増加を目指す。

計画の成果指標（定量的指標）	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			達成状況（結果）（R02末）
		当初現況値（H29当初）	中間目標値（H31末）	最終目標値（R02末）	
熊本城周辺の入込数を、2,250,000人/年（H28）から3,000,000人/年（R02）に増加	二の丸広場、城彩苑、シンボルプロムナード及び（仮称）花畑広場等の入込数を測定する	2,250千人/年	2,625千人/年	3,000千人/年	1,240千人/年（41.3%）

4　対応方針（案）

市の対応方針

今後の方針	• 事業が完了しているが、コロナによる影響が低減すると予想される今後の状況について、入込数の把握などで効果の発現状況を確認していく
今後の事後評価の必要性	• 新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、入込数が減少しているが、今後、新型コロナウイルスのワクチン接種が進んでいること、また「熊本城天守閣復旧整備事業」完了による熊本城天守閣の一般公開等を開始していることから、目標達成は可能と判断するため、本事業（計画）に対する「今後の事業評価（フォローアップ）」は実施しない
改善措置の必要性	• 天守閣の耐震改修による耐震性能の向上やバリアフリー化の実績より一定の事業効果は得られたため、改善措置の必要性はない。
同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性	• 今後同種事業の計画はないため、必要はない。